

特定原子力施設監視・評価検討会
（第49回）
本日の議題に関するこれまでの議論

平成28年12月26日



1. 建屋滞留水処理の進捗状況
2. フランジ型タンクの運用
3. 陸側遮水壁の状況
4. その他(2号機海水配管トレンチの状況)

1. 建屋滞留水処理の進捗



<前回までの議論(第45回～第47回検討会)>

- 建屋滞留水の処理を2020年内に完了させることを目的に、復水器内滞留水のインベントリ低減計画や、これを実現させるためのサブドレン処理システムの強化対策について議論
- その際、復水器(ホットウェル天板下部)の水抜きの実現可能性や、複数回の希釈による放射性物質濃度の低減実現性が論点となった。

○本日は、上記の議論を踏まえ、現在進められている滞留水処理の進捗状況について説明を受ける。

2. フランジ型タンクの運用



<前回までの議論(第42回検討会)>

- フランジ型タンクの運用については、第42回検討会において、「Sr処理水をフランジ型タンクに貯留する場合の留意事項」について説明があり、地下水流入抑制効果が遅れた場合には、使用が5年を超える可能性があるとの説明があった。

○本日は、使用が5年を越える可能性があるSr処理水を貯留するフランジ型タンクに対する保全等の対応方針について説明を受ける。

3. 陸側遮水壁の状況



<前回までの議論(第47回検討会ほか)>

- 陸側遮水壁については、本年3月海側及び山側一部、本年12月に山側2箇所の実施計画の認可を行ったところ。
- 他方、遮水性の効果については、指標の一つとして4m盤のくみ上げ量の目標値として、約70m³/日との説明があった。

○本日は、4m盤のくみ上げ量の状況、今後の注水試験の計画、山側からの地下水流入が減少した場合の地下水収支等について説明を受ける。

4. その他



<前回までの議論(第40回検討会ほか)>

【2号機海水配管トレンチの今後の対応】

- 2号機海側海水配管トレンチからの高濃度汚染水については、タービン建屋との間の凍結止水の適切性やセメント系材料を用いた充填等の内容について議論を行ってきた。
 - その後、昨年7月に充填が完了し、建屋と立坑部(C)との連通性について約1年間、監視が行われてきた。
- 本日は、監視を踏まえた連通性に係る評価結果、今後の対応について説明を受ける。